

大学・高専機能強化支援事業  
令和7年度現地調査報告書

大学・高専機能強化支援事業選定委員会

調査日	令和7年 11 月 5 日(水)	区分	支援 1
選定年度	令和5年度	大学名	八戸工業大学
設置等組織名	総合情報部総合情報科 先進工学部先進工学科 デザイン工学部デザイン工学科	設置・定員増員年度	令和9年度
事業計画名	成長分野への転換に向けた学科新設計画		

1. 進捗状況の概要

(1) 事業計画の具体的な取組の進捗状況

- ・令和5年度に決定予定であった、各学科の育成すべき人材像と3ポリシーは概ね策定されていることが確認できたものの、令和9年度開設に向け、事業計画全体の取組のスピードアップが必要と思われる。
- ・申請時の計画には中心街へのキャンパス移転があったものの、検討の結果、令和9年度開設に向け、現行キャンパスの改修・整備を優先し、一旦これに注力することとしている。一方で、キャンパスの移転については、引き続き検討を進める予定である。

(2) 好事例や把握された事業の成果

- ・研究室等の施設見学により、地域と連携しながら、学生の成長や教育の効果が具体的に、実感として感じられるような教育体制であることが感じられた。
- ・HIT リケジョ LABO の活動と女子学生数の増加には相関があると考えられるデータもあり、女子学生確保に向けた良い取組であると考えられる。

2. 指摘事項(留意事項・参考意見)

(参考意見)

- ・今回の改組を機に、学生の希望に更に注目し、学校全体の学生数や女子学生数の増加に向けて取り組んでほしい。既に取り組んでいる中高生向けのイベント等を継続する他、持っているすべてのネットワークを活用し、中高生以外にも、親、地元社会等、あらゆる方面に改組の話が行き届くよう周知してほしい。
- ・広報について、親も納得でき、高校生に魅力的な切り口をもっとアピールできると良い。  
光学モーションキャプチャや吸収冷凍機等を用いた、研究者自身が現象に触れて理解を深められ、結果が具体的な形で返ってくるような、現実との距離が近い教育研究や、八戸や青森県等の地域に根差している強みをより前面にアピールすると良いのではないかと。  
また、一般型よりも推薦型で入学する学生が増えていることから、推薦型を考えている学生にも3学部の魅力が伝わるように準備を進めてほしい。
- ・グリーン分野では HIT カーボンニュートラル人材育成協議会、デジタル分野では青森県 DX 推進ラボ等、コンソーシアムに参画しているが、産業界との連携を継続することにより、将来的には、知名度の向上や魅力の増大、学生数の増加への効果が期待できる。ぜひ長期的に取り組んでほしい。